

NPO 法人和光・緑と湧き水の会



「ふれあいの森での自然まるごとガイド」

所 在：和光市

構成員：70名

和光市は東京都に接する都市化の進む小都市で、開発と自然環境保持の両立が重要課題です。当会は、都市部の身近な自然を“知り、守り、活かす”活動を進めています。自然の調査を基に、保全を進め、その経験を活かして子供達が自然に触れる場を作り、観察会や講演会、案内マップの作成など、人と自然、人と人とのふれあいの場を広めています。

県南最多！湧き水の街「和光の湧き水と自然」守り、伝える

～和光の身近な自然を調査・保全、自然まるごとガイドの実践～

受賞の主な取組

・市内の①白子湧水群と大坂ふれあいの森②新倉ふれあいの森③和光樹林公園のどんぐりの森を主なフィールドとして、湧き水と緑地を科学的に調査し生物多様性を進める環境保全活動を実践しています。

・三地域のガイドマップを作成し、学校や公共施設への配布、ガイドマップを活用した市民・子ども向け観察会を年間10回程度開催するなど、身近な自然の大切さを広めるガイドとしても活動しています。

取組をはじめたきっかけ

都市部の片隅に湧き出す湧き水とその周囲の生態系に魅せられ、それを残していきたいと思いました。1998年、和光市と日本自然保護協会が市民参加の自然環境調査を実施し、当会は市民の窓口として参加、身近なところに貴重な自然が残り、それを残していくことの大切さを感じました。2007年からはNPO法人として、地域の人と人との繋がりを基に、身近な自然を調べ、保全し、活用していく活動を継続・発展させるように努めています。

これからの展望

和光市内の主に3つのフィールド（白子湧水群と大坂ふれあいの森、新倉ふれあいの森、和光樹林公園の一部）で、湧水とその周囲の生態系の調査や貴重動植物の保護、自然な生態を持つ“ドングリの森づくり”の活動を発展的に継続していきます。調査や保全と連携して、市民や子供たちが触れる“自然の場づくり”、自然の大切さを伝えるパンフレットの作成配布、自然と触れ合う学校教育への協力など、一連の活動として向上発展させていきます。



「樹林公園ドングリの森で昆虫さがし」



「水量豊富な白子の湧き水」

受賞して

一地域での活動が“受賞”として認められたことは光栄であり、活動の励みとなり感謝致します。ボランティア活動での人と人との繋がりも公的に評価され会の財産となります。受賞を機に成果を伝え広めるフォーラムの開催、学校教育や行政との連携、日本自然保護協会や自然観察指導員埼玉、地学団体研究会等、広い視野での自然保護活動との結びつきに活かしたいと思っています。